

舟倉島

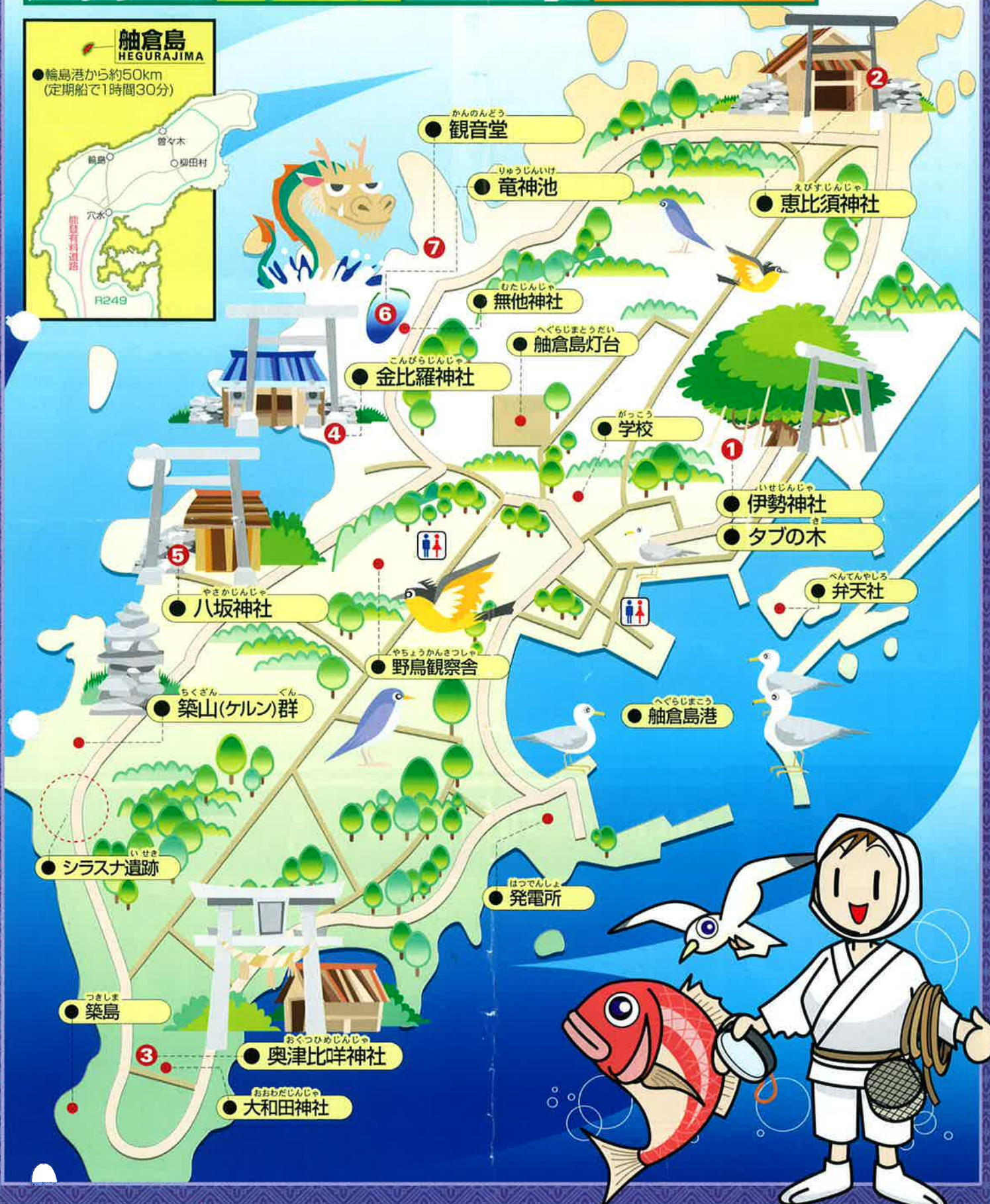
AREA MAP

能登半島国定公園。
鳥と魚の島・へぐらじま。

お問い合わせ [海士町自治会]
TEL:0768-23-8200

舟倉島
HEGURAJIMA

●輪島港から約50km
(定期船で1時間30分)



観音堂

竜神池

恵比須神社

無他神社

舟倉島灯台

金比羅神社

学校

伊勢神社

タブの木

八坂神社

野鳥観察舎

弁天社

築山(ケルン)群

舟倉島港

シラスナ遺跡

発電所

築島

奥津比咩神社

大和田神社

鳥

BIRD WATCHING

バードウォッチングの島・舳倉島

島は渡り鳥の一大オアシス

舳倉島は、300種を超える渡り鳥の中継地である。渡り鳥は、春は南から北へ、秋は北から南

へ渡り、その飛行距離は何百km、何千kmに及び、体内磁石を持ち、また気象予知能力を持つと言われるが、渡りの途中の危険は計り知れない。急激な気温の変化や風雨にさらされれば、直ちに落鳥は免れない。そんな時の舳倉島は、彼等にとって一大オアシスなのである。休養と栄養をとり、体力を回復し目的地へ旅立つのである。その数は何万羽、何千羽、何百羽なのか数えきれない。舳倉島の自然をいつまでも大切にしたい。

大陸系の希少種も定期的に出現

舳倉島の鳥相の大きな特徴は、本土部では殆ど見られない種の渡来である。迷鳥とされている大陸系の種が定期的に見られる。

春には、ヤツガシラ、ヤマショウビン、コウライウグイス等々、繁殖域が中国大陸南部や東南アジアにある南方系の種である。

秋には、ユキホオジロ、オオモズ、シラガホオジロ等々、繁殖域が主としてシベリア大陸で北方系の種である。

春秋共に出現する種としては、シマアオジ、マミジロタヒバリ、アカマシコ、ツメナガセキレイ、キマユムシクイ等々で大陸系の種である。

本邦初記録の種としては、クロジョウビタキ、チツチャフ、シロビタイジョウビタキがある。



宇野孝



バードウォッチャーへのお願い

舳倉島は国定公園であり、鳥獣保護区である。特に北西側は特別保護区に指定されている。また島の人達の生活の根拠地であり、疲れきった渡り鳥の休息地である。以上のことを心して、バードウォッチングしなければならない。

1. メダケ群落や松林の間道を静かにゆっくり歩くことが大切。時には2-3mの所で肉眼で見ることができる。鳥を驚かさないことが大切。特に大きな足音をたてない。
2. 野外でのキャンプや火気使用禁止である。
3. 植物を大切に、空カンやゴミを捨てないように自然を大切に。
4. 民家付近でのレンズ操作に注意。また道路をふさがないように。
5. 明るいあいさつで、よい思い出を沢山持ち帰って下さい。



釣

FISHING

海釣り三昧!! 舳倉島

舳倉島はその周囲4キロメートルすべてが魚の宝庫。絶好の釣りポイントとなっている。日本海の荒波に育てられた大物達が、その豪快なヒキで釣り人の心を捕えて放さない。マダイ、クロダイ、イシダイ、スズキ、ハチメ(メバル)、アイナメなど、獲物の種類も豊富。一度糸を垂れば忘れられなくなること請合い。まさに釣りマニアにとってのパラダイスといえる。



沖釣り天国

お問い合わせ

釣りの醍醐味沖釣りを、チャーター船で思う存分に。舳倉島海域へは輪島港から往復4時間程度。日本海が今日もあなたの挑戦を待っている。
 ■午前2時より随時出港 ■釣り時間6時間(延長可) ■運賃(舳倉島周辺):70,000円/1名増す毎にプラス5,000円/延長1時間5,000円
 ※注意報・警報発令中は出港しません

海士町自治会 石川県輪島市鳳至町下町166番地 ■営業時間:AM9:00-PM5:00
 TEL:0768(23)8200/FAX:0768(23)8201 ■休業日:日曜・祭日

企画・発行: 輪島市産業経済部観光課 0768-23-1146



島内の主な植物

●アブラナ (アブラナ科)

春、なの花の島かと思ふほど、島じゅういっぱい咲きみだれる。

●エゾツルキンバイ (バラ科)

石川県で舳倉島でしか見られない植物。日本で一番南に咲いているエゾツルキンバイ。



●アサツキ (ユリ科)

5-6月、まるくかわいい花をつける。葉はネギのように食べることができる。

●アカネムグラ (アカネ科)

石川県で舳倉島でしか見られない植物。夏、白い小さな花をつける。日本で一番南に咲くアカネムグラ。



P L A N T

植



●オオハナウド (セリ科)

5-6月、草原一帯をうめつくすほど、白い花をいっぱい咲かせる。



●カジイチゴ (バラ科)

春、島じゅうに白い花をさかせる。だいたい色の実のイチゴはおやつとして食べることができる。

●コオニユリ (ユリ科)

夏、岩場近くに、まるで花畑のように黄赤の花を咲かせる。



●ハマウド (セリ科)

6-7月、人の身長を超えるほど大きな植物が花を咲かせる。島に沢山生きている海岸の植物のひとつ。暖かい所を好む。

●ツワブキ (キク科)

10-11月、島のあちこちで黄色い花を咲かせる。葉につやがあり、島の人は春先の葉をフキのように食べる。



●オニユリ (ユリ科)

夏、北スラの海岸で、群れをなして黄赤の花を咲かせる。よく似たコオニユリよりも、花をつける時期が少し遅い。

●ハマハコベ (ナデシコ科)

夏、海岸の石ころの間に生える。舳倉島では数の少ない植物。



●ハマナデシコ (ナデシコ科)

夏、島の道路沿いに生える。こいピンクの花を咲かせている。

独自の植物体系を持つ舳倉島

定期船 [ニューへくら]

輪島沖約50キロメートルに浮かぶ日本海の孤島・舳倉島への唯一の航路。1日1航海、所要時間1時間30分。■運賃[片道]：大人1,900円/小人950円(団体割引：15名様以上1割引)

3月1日-10月31日の間

輪島発	9:00 → 10:30	舳倉島着
輪島着	16:30 ← 15:00	舳倉島発

11月1日-2月末日の間

輪島発	9:00 → 10:30	舳倉島着
輪島着	15:30 ← 14:00	舳倉島発



お問い合わせ

へくら航路株式会社
石川県輪島市鳳至町下町166番地
TEL:0768(22)4381



舢倉島

へぐらしま

おすすめスポットのごあんない



輪島から北方約50kmに位置し、標高約13m、周囲約7kmの「絶海の孤島」で、七ツ島や能登半島と同じく火成岩で出来ている。

中央部にある竜神池を中心にして二度の火山噴火によって生成された島といわれ、すでに今昔物語の中にこの島を舞台にした説話が記述されている。

また、弥生時代から奈良時代にかけてアシカ猟が行われていた記録も残っている。

藩政期の初頭から、海士町の住民が八十八夜ころに一齐に渡島して、秋の中旬までアワビ、サザエ、海藻などを採取する潜水作業を行っていたが、町をあげての「島渡り」の風習は、昭和の後期からなくなった。

昭和43年には能登半島国立公園に指定され、優れた自然景観と貴重な動植物の保全が図られてきた。特に、日本有数の渡り鳥の寄留地として知られ、これまでに約300種の野鳥が記録されている。

1 伊勢神社



「やしろ様」とも呼ばれる神社で、島に鎮座する七つの小宮の一つである。昔はここに奥津比咩神社があり、島全体の総氏神であったといわれている。

やがて、奥津比咩神社が島の南西に移転してからは、この社が伊勢信仰の中心となり、8月の例大祭が海士町で行われるようになるまでは、神奥の御飯屋としてにぎわってきた。

境内の右手に自生する「タブ」の木は、舢倉島で唯一の大木で、神の依代として昔から島民の尊崇を受けてきた。

■ 輪島市指定天然記念物 やしろ様のタブの木

昭和58年6月27日指定 全長:約12.6m/根周り:約4.8m/推定樹齢:約300年

2 恵比須神社



島の北東に位置し、漁業繁栄の祈願所で、恵比須大神を祭っている。島にある七つの小宮の一つで、恵比須組と大北組が管理している。

舢倉島へ一斉渡島の行っていた頃は、島へ着くとまず自分の所管の小宮へ組の全員が集まって今年の稼業の安全祈願を行い、お神酒五升を飲んで夜を明かした。この行事を「ゴショウツイヤ」(五升通夜)と呼んでいる。

そして、それが済むと島民全員が総本社の奥津比咩神社に集まり、区長が主宰して一年間のいろいろな決まり事を相談する総会を開き、最後に全員で飲み明かしたといわれる。これが「ナカマツイヤ」(仲間通夜)である。また一年の稼業を終えて一斉離島する時はその逆で「レイツイヤ」(礼通夜)が行われていた。

3 奥津比咩神社



舢倉島の総本社で、鳳至郡に九社あった延喜式内社の一つである。江戸時代の初期に島内伊勢神社の地から現在地に遷座されたといわれている。俗に「西ノ宮」とか「舢倉権現」と尊称され、田心姫命を祭っている。

奈良時代に国守大伴家持卿が能登を巡行された時の長歌が万葉集に載っており、その中に「沖つ島い行き渡りて 藩くちふ 鯨珠もが 包みて遣らむ」と詠まれている。

奥津比咩神社の横には大和田神社があり、西組と大西組が管理している。

■ 輪島市指定有形文化財 千石船渡海船の模型と板図 昭和38年9月23日指定
■ 舢倉島の祭祀資料 平成2年8月22日指定

4 5 金比羅神社と八坂神社



舢倉島の北側中央に建っている神社で、前方が金比羅神社、西側が八坂神社である。それぞれ小吉組と出村組が管理している。島にある七つの小宮の一つである。前者は航海安全、後者は防疫神として心身の健康を祈願する島民のよりどころである。二つの神社の間には「深湾同遺跡」、その北西には「シラスナ遺跡」が点在して、弥生、古墳、奈良平安の複合遺跡ともいわれている。

また、舢倉島で目に付くのが石積み(ケルン)の多さである。島内には70あまりのケルンがあり、石を積むことが竜神様の供養となってエゴ草がたくさん採れるようになると言い伝えられている。また、江戸時代に起きた海難事故のあと、低い島を少しでも高く見せて海上からの標識になるよう積み上げたともいう。アワビ採取の潜水場所を覚える「山だめ」としても利用されている。無数のケルンがそびえる光景は舢倉島ならではの情緒を醸し出している。

※ケルンは単なる石積みではなく、貴重な歴史的財産である。安易に手を触れたり、石を動かしたりしないこと。

6 7 竜神池と観音堂



藩政末期に一旭上人という僧が島にやって来て、毎晩観音堂に島民を集めて説教をしていた。ところが、いつも末座に若い女がじっと聞き知っているの、ある晚上人がたずねると、女は「私はこの池に棲む竜なのです。難破船の錨の毒にあたって死んだのですが、未だに成仏できずいます。どうか助けてください。」と涙を流してたのむのだった。

そこで翌朝、島民が池の水をくみ上げたところ、池の底から大小二体の骨が見つかった。骨は樽四杯分にもなった。

この母子の竜骨は法蔵寺分院に葬られた。人々は父親の竜が現在も近くの海に生息していると考え、神として祭って無他神社とした。

この竜神池は周囲約180mあり、底が竜宮城に通じていて決して水が枯れることは無いといわれている。

観音堂は中北組と上北組が管理している。